

久保川と天王山の森を守る会

ドングリの森作り

活動フィールド：京都府乙訓郡大山崎町 久保川、天王山
所在地：京都府乙訓郡
設立：1998年
会員：10名



天王山周辺森林整備推進協議会が設立され、企業・学校・地域住民などによる協働・連携の森づくりが始まりました。

森林の手入れが充分に行われず、竹林が拡大して森林の環境や景観などに変化が見られます。森林は孟宗竹に覆われて暗くなり、森林浴を楽しむ人々も少なくなり、カブトムシや鳥などの生き物の姿が森から消えかけています。もっと明るい落葉広葉樹の森にしたいと竹林の間伐を行っています。環境学習の一環として、地域の小学校と連携してクヌギ、コナラなどのドングリの実を森から採集し、苗木を作り、森に返す活動を毎年、行っています。

多様な自然の恵みを知ってもらい、市民に親しまれる里山を再生しようとタケノコ掘りや竹林空間での音楽イベントを開催しました。また散歩の途中、竹林広場に気軽に立ち寄れるように薪割り暖炉によるドリップカフェ“天空”を開設し、地域住宅とひとつながりの暮らしの場として里山の環境を整えています。夏原グラント助成金は里山啓発のためのパンフレット、のぼり旗、横断幕やツルハシ、カマ、ノコギリなどの備品整備に役立たせていただき大変助かりました。

天若湖アートプロジェクト実行委員会

あかりがつなく記憶2013
ワークショップ&ドキュメント

活動フィールド：京都府丹南市 日吉ダム
所在地：京都市左京区
設立：2005年4月
会員：約60名
<http://amawakaap.exblog.jp/15774807/>



流域環境の再生・保全のためには、上下流市民の間の共感形成と相互理解が欠かせません。人と環境との関わりの中には、公式な言葉からはこぼれ落ちてしまうものもあるという考えのもと、天若湖アートプロジェクトではアートによる上下流コミュニケーションを構想してきました。

ダム湖に水没した集落の広がりや「あかり」で再現するインスタレーション「あかりがつなく記憶」はその中心をなすものです。

夏原グラントの助成により、作家によるインスタレーションを実現し、またアートプロジェクトの姿を広く上下流にアピールする映像・写真資料を制作することができました。これにより多くの市民の流域環境への関心を惹起することが期待されます。また既にさまざまな市民団体との連携が実現しつつあります。

田村山生き物ネットワーク

カスミサンショウウオの保護に向けた生息場所
(保護池)設置事業

活動フィールド：滋賀県長浜市 田村山
所在地：滋賀県長浜市
設立：2010年11月
会員：約80名



2005年春、滋賀県で希少種に指定されている「カスミサンショウウオ」の卵を田村山山麓の側溝で多数発見、その後側溝の水漏れが顕著となり、2009年には5,000匹近い幼生が絶滅状態となりました。長浜バイオ大学をはじめ、地元企業・事業所や周辺自治会などで当ネットワークを設立し、用水の補給や側溝の補修を行うとともに、保護意識を高めるため小中高生等による学習会を継続開催しています。しかし、生息している側溝の構造的欠陥から、保護への恒久的な対応が必要となり、今回夏原グラント助成金を活用し、側溝近くに生息に必要な用水供給の電動化並びに「保護池」の設置が出来ました。

希少種の動植物保護に向けては地域住民はもとより、より多くの方の保護に向けた関心が必要であり、「保護池」設置に当たっては、約80人の高校生・大学生、地元住民などの奉仕活動も得ながら完成することができました。

「保護池」設置は最終目標ではなく、更に危機に瀕している周辺動植物の保護など自然環境の保護保全に向けて、こうした活動が地域全体への意識改革に一定の貢献ができたものと考えています。

特定非営利活動法人 碧いびわ湖

琵琶湖と暮らしのつながりの再生
(みんなでつくる！暮らしの体験の場)

活動フィールド：滋賀県栗東市
所在地：滋賀県近江八幡市
設立：2009年6月
会員：約100名
<http://aoibiwako.shiga-saku.net/>



私たちは、琵琶湖の流域、金勝川支流周辺の里山（竹林と遊休農地）で、「子どもとともに自然の中で遊び学ぶ場づくり」を行っています。1年を通して、竹林整備の指導者を招き、地元の方々に助けをもらいながら、子どもと大人が一緒になって作業を行ってきました。

いま、多くの家庭には、上下水道・ガス・電気がごく当たり前であり、ふだん使う「水」や火をおこす「燃料」のありがたみを感じることは少なくなりました。そうした中、この場所にみんなで集まって一緒に炊事ができる小屋を大工さんの指導のもと、みんなでワイワイつくることができました。切った竹を燃料にしてご飯を炊き、また屋根から樋をとおして1tタンクに貯めた雨水を使ってお皿を洗ったりできるようになりました。

小屋づくりにあたっては助成金に加えて、チャリティ企画を実施し、イベントの来場者や、趣旨に賛同して応援しようという方々からご寄付をいただくことができました（188口おおよそ15万円）。夏原グラントの助成をいただき社会的な信頼度が高まったと感じています。

理想の森プロジェクト

鴨川源流の森林環境保全のための
市民参加型森づくりイベントの実施

活動フィールド：京都府京都市北区雲ヶ畑
所在地：京都市京都市北区
設立：2003年（前身団体解散後、2012年に現団体を設立）
<http://risoh.exblog.jp/>



私たち「理想の森プロジェクト」は京都を流れる鴨川の源流部、京都市北区雲ヶ畑地域で森づくりを行っています。春には広葉樹の植林、夏には下草刈り、秋には薪割りやどんぐり拾い、冬には炭焼きや次の春の植林のための地ごしらえと、年間を通じた活動をしています。

メンバーはご指導をお願いしている山主さんをはじめ、学生、環境NGOの人、材木屋さん、家具職人さん、大工さん、普段は関係ない仕事をしているけど森が好きで、森が好きで家族で参加してくれる人たち、などもバラエティー豊かです。立場は色々ですが、みんな森で過ごす時間が好きで参加してくれています。

2013年度はより多くの人に雲ヶ畑を知ってもらいたいと思い、普段の森づくり活動に加えて「森づくり+地域を楽しむ」というイベントを開催しました。例えば「薪割り+餅つき」、「竹の工作+流しそうめん」などなど。このため、前年よりも30名ほど多くの方に雲ヶ畑に来ていただくことができました。

微力ですが、私たちの活動がきっかけとなり森とまちとの新しい繋がりができて、地域全体が元気になって欲しいと思っています。

特定非営利活動法人 瀬田川リパブレ隊

ふるさとの川（大石川）調査隊及び植生調査

活動フィールド：滋賀県大津市 琵琶湖、瀬田川
所在地：滋賀県大津市
設立：2003年3月
<http://www.animateur.co.jp/riverplay/>



ふるさとの川（大石川）、自然環境が残る豊かな河川を守り、次世代に引き継ぐため、多くの地域住民の参加を求め「ふるさとの川 大石かわべ物語」を開催、その他にも大石川生き物調査隊（子ども対象）植生モニタリング、等を実施しました。

大石かわべ物語は（5月26日）地元自治会、淀川ダム統合管理事務所等の協力をえて、自然観察会、河川の環境保全の話と共に、木工教室、野外音楽等各種イベントを実施しました。自然観察会ではヤナギ林で貴重な動植物の観察が出来た一方アレチウリ等の特定外来種の侵入、野鳥観察では対岸に川鶴のコロニーの観察が出来ました。ふるさとの川調査隊（7月20日）では地元小学生を対象にPTA、ダム統合管理事務所、琵琶湖博物館等の協力を得て、子供たちと川に入り色々な生き物を採取して、後指導員の説明を聞き、大石川での数々生き物と川の水質調査の実施により、自然環境豊かな川について学習の実施。植生モニタリング調査（1月21日）は大石川と瀬田川合流の造成後の植物観察、コドラート調査により、今後の植物群落を継続観察及び漂着ゴミ調査回収等環境保全活動を継続実施していきます。

いきもの多様性研究所

京都府和束町における、野生動物との共存を目指す、豊かな森復元モデル事業

活動フィールド：京都府和束町
所在地：京都市中京区
設立：2009年4月
会員：15名
http://www.jca.apc.org/inst_biodiversity/iki-mono.html



和束町では里地における獣害が深刻になっており、要因の一つに山林の42.3%をスギ・ヒノキ等の単一樹種の人工林が占め、更に放置された人工林が増え野生動物が棲めない環境になっていることが挙げられます。そこで、獣害を軽減し人と野生動物との共存を図るために、健全な森の復元を目指すこととなりました。

実施に当たっては和束町民や近隣自治体に住む市民等に参加を呼びかけ、学習会や計画づくり、放置人工林の強度間伐を行いました。林内に光を入れ、土地本来の多様な生物が戻れるようにし、残されたスギやヒノキも元気に成長できるような森を目指しました。

助成金は、作業に欠かせないノコギリ等の購入費、近隣の先進事例を学ぶための交通費、専門家への謝金等に使用させていただきました。平和堂からの助成は地元からの信頼に繋がりました。活動に参加した和束町の住民有志らが自らもグループをつくり、森づくり活動を開始しました。役場からは、本事業がきっかけになり職員や住民、事業者の森林保全活動の意識が高まり、和束町主導で地元産間伐材の家具への活用の検討が始まったと評価されています。

琵琶湖お魚探検隊

環境保全に関する教育啓発、人材育成活動

活動フィールド：滋賀県近江八幡市
所在地：近江八幡市
設立：2006年4月
会員：約10名
<http://blog.canpan.info/biwako/>



自然の中へ、自然について、自然のために、荒廃する現状を自ら体験し考え、市民が参加するキッカケとして2006年に近江八幡市市民環境部と協働で琵琶湖お魚探検隊を立ち上げました。一概に水辺での学習を体験したからといって、急に子ども達の成長が見られるものではありませんが、身近な水辺で親子三代生きた体験学習から得る力、正しく秩序あるたくましく生きる力を育て、優れた大人になってくれることを望み活動を続けています。

定例お魚調査日には、こんな川にも生き物がいるのかな、親子で挑戦、獲ったお魚等の説明、お魚調査票を子ども達に渡し記録させる（調査票は各自が保管）年3~4回イベントを実施、1)琵琶湖畔での地曳網体験、外来魚の多さ、外来魚が在来魚を食する、外来魚の解剖、体感から生きた体験学習を行っています。2)デイキャンプではハンゴウ炊飯、茸松明づくり、自然を材料とした工作等、3)西ノ湖お楽しみ自然体験学習等を行っています。

夏原グラントの助成によって、子どもたちに水辺に触れさせる機会がつかれない、そんな悩みを抱えている親たちに川への知識や安全な遊び方、川の大切さを実感してもらえるよう、趣向を凝らし皆さんにお役に立ちたいと考えています。

<コラム>平成25年度しが生物多様性大賞 2事業が受賞

特別賞
認定NPO法人 びわこ豊穡の郷
オオバナミズキンバイ除去プロジェクト

『消えそうないきものたちの命の砦を築くで賞』
田村山生き物ネットワーク
(滋賀県知事表彰)

滋賀経済同友会からの提言により、滋賀県と滋賀経済同友会が協力して、企業とNPO・地域等との協働による優れた活動を表彰する「しが生物多様性大賞」平成25年度の審査の結果、滋賀生物多様性大賞として3件、特別賞として1件が選ばれています。

このしが生物多様性大賞(滋賀県知事表彰)『消えそうないきものたちの命の砦を築くで賞』を夏原グラント採択団体の田村山生き物ネットワークが受賞！そして特別賞(滋賀経済同友会代表幹事表彰)を同じく特定非営利活動法人 びわこ豊穡の郷のオオバナミズキンバイ除去プロジェクトが受賞！

夏原グラントで助成している活動が生物多様性のために意義があると認めらる一つの証でもあります。

生物のことを考えるには、十年どころかもっと長いスパンでの視野と継続する活動が必要です。また地域ぐるみの取組も不可欠となるでしょう。両活動ともますますのご発展を期待しています。

巨木と水源の郷をまもる会

巨木を育む豊かな森と水源の郷をつくる
トチノキプロジェクト

活動フィールド：滋賀県高島市朽木
所在地：滋賀県高島市朽木
設立：2010年10月（活動開始は2009年12月）
会員：96名
<http://kyobokutosuigennosato.jimdo.com/>



本年度もトチノキ等巨木の調査をし、戸籍簿を作る作業を継続して行いました。源流の森づくりでは、高島市新旭針江で育てた苗の移植をするともに、源流での実生生育観察も行い、シカ等の獣害から幼樹をまもるための方策について検討し、今後の参考資料としました。

年度末に行いました第3回トチノキ発表会では、巨木伐採判明から会の保全に向けた取り組み、訴訟の経緯、我が会の活動基本である三位一体活動の詳細についてこれまでの成果を報告しました。買い取り基金集め等を行った「日本くまもり協会」森山会長の講演も好評でした。更に、とちもち座談会では、会場の参加者も交えて活発な意見交換会とすることが出来ました。この発表会のことは新聞紙上でも大きく取り上げられ、広く一般市民にも広報が出来ました。源流の保全そのものが環境に貢献出来るものと認識していますし、新たな朽木ブランドのトチ製品を作って行きたいという地域の方々のやる気を喚起出来たことが、何よりの地域貢献であると自負しています。助成金を頂けたことで、高いガソリン代にひるむことなく朽木中を走り回れたこと。印刷費や郵送料に存分に費用を使うことが出来、感謝の念にたえません。

ニナプロジェクト・ホタルン (カワニナ里親の会)

源氏ホタル「特別天然記念物指定地」の環境（ホタルンロード）
整備と浚渫河川へのカワニナの放流事業及びカワニナ養殖水路改修

活動フィールド：滋賀県米原市長岡 天の川
所在地：滋賀県米原市
設立：2009年3月
会員：約40名



米原市長岡地先の、天の川は「長岡の源氏ボタル及びその発生地として、日本で唯一国の特別天然記念物に指定されています。地元長岡区のホタル保護活動は約100年前からの継続した取組です。

ニナプロジェクト・ホタルンは、地域の水環境保全活動、ホタル保護取組の情報発信団体として6年前に発足しました。2012年から「夏原グラント」に採択いただき活動の幅を広げることができました。

第一の取組は、ホタルンロードの創造、親子の「絆」事業として特別天然記念物指定地の天の川護岸に絵図を描き、環境保全のシンボルロードとして完成しました。県・市・地域の賛同を受けて民・官・学の共同参画で大いに環境保全への効果を上げました。地域の皆さんの評価は高く、その取組の様子は、市の行政放送で市民の皆さんに広く情報の発信を行いました。

第二の取組は、地元山東小学校での環境学習支援として「ほたるのお話会」を開催しています。地域の宝を守る事、水環境の大切さを学んでいます。同校の三年生は、ほたるの幼虫観察を4月~6月に実施し幼虫から成虫に育つ過程を観察、地元の川に放ちました。ほたるの幼虫観察の成果を、環境学習発表会で発表しました。

琵琶湖博物館はしかけ 田んぼの生きもの調査グループ

「田んぼのエビ類（大型鰓脚類）」の生息と水田環境

活動フィールド：滋賀県内
所在地：滋賀県草津市 琵琶湖博物館
設立：2001年4月
会員：約20名



私達のグループは田んぼに生息するエビに似た小さい生き物（大型鰓脚類）の分布を調べています。田んぼは田園生態系の中心であり、そこに生きる生物を調査することで、生態系の保全に役立つ知識を得ることが出来ます。今年度は昨年度に引き続きGPSを活用した長浜での詳細な調査と、今まで報告がなかった地域での分布調査を行いました。これらの調査で①エビ類の発生の傾向に年ごとの変化が少ないこと、②水入れの早い田んぼではカイエビが、水入れの遅い田んぼではハウネンエビが多く見られることがわかりました。田んぼのエビ類は孵化時の温度条件によってその生存が決定されるのかもしれませんが、他の生物との競合などを含めた孵化時の環境条件がエビ類の分布に大きく影響している可能性があり、今後の重要な課題となりました。そのため冬期には初めてエビ類飼育の予備実験を行いました。今年度の助成金で購入した水温計が、この飼育実験にも利用されています。

調査結果の公表や、活動紹介を兼ねたイベントも行いました。「琵琶湖地域の水田生物研究会」で調査結果を発表し、また琵琶湖博物館の「体験学習」で子どもたちに田んぼのエビ類を紹介しました。生き物に関心を持ち、家の近くの田んぼをのぞきこんでくれる人たちが増えてくれることを期待しています。

草津でホタルを楽しむ会 湧水池（あさ池）を活かして、ホタルや生き物達を
観察できる水辺づくり（草津市新堂町）

活動フィールド：滋賀県草津市新堂町浅池・周辺河川
所在地：滋賀県草津市
設立：2005年
会員：20名
<http://hotaru932.shiga-saku.net/>



ホタルを通して自然の素晴らしさを伝え、地域の自然や水辺に親しみを
感じていただけるように活動しています。水利用が無くなり暮らしと切り
離された湧水池は、人が入れない荒れた状態になっていました。以前のよ
うに「ホタルが飛び交う、地域の大切な水辺」を目指し、地域の方々と一
緒に整備活動を始め、地域の方々が親しめる場となりました。

これから池周囲の整備を進め、ホタルや生き物が生息しやすい環境をつ
くり、生き物観察と触合いの場、地域の方々の交流の場として、「地域の
宝物」にしていきたいです。活動を紹介する観察小屋や自然の素晴らし
さを伝える看板を設置、水生植物の植樹やメダカが遊ぶ水路も出来まし
た。

昨年は地元の小学生が環境教育として、この取り組みを学び、池を見学
し、生き物観察に来てくれました。地域の方々と一緒に汗を流して活動に
取り組み、子供たちにも関心を持っていただくことで、地域の大切な水
辺、自然に親しむ交流の場となっています。これからホタルや生き物の観
察、魚掴み（カイドリ）を通して、「ふるさとの思い出づくり」に繋がりたい
です。

特定非営利活動法人 蒲生野考現倶楽部 佐久良川周辺里地での貴重動植物の
持続可能な保護活動の探索

活動フィールド：滋賀県蒲生郡日野町
所在地：滋賀県東近江市
設立：1990年4月、2003年法人化
会員：25名
<http://www.gamouno.com/>



私たちは「たんけん・はっけん・ほっとけん」をスローガンに身近な水
環境や、里地里山の環境を学び伝えています。

環境省のモニタリングサイト1000里地調査に参加し、日野町川原や同
町奥之池にて、植物や野鳥などを調査した結果、両地点いずれも農耕地周
辺に希少動植物が残されていることが分かりました。しかし、少子高齢化
が進む当地では農耕地の放棄や除草剤の使用等が始まり、これら希少動植
物が消えようとしています。そこで、地元住民自らが地元の環境保全に関
わることが必須と考え、調査結果を冊子にまとめ、先ず住民に関心を持っ
てもらうことを目指しました。

作成した報告書を見て、希少動植物がここに暮らし、これらを守ること
の大切さに関心を持ってもらえたのではないかと思います。また、具体的
な草刈りの時期など、地元の方にご理解いただけたと思います。

この度の助成金を使って、図鑑兼調査結果報告書としてまとめることが
できました。この冊子を見て、地元の多様な生き物に魅力を感じ、後の世
代に残していきたいと思っただけなのではないかと思えます。

特定非営利活動法人 妙理の里 ペレットストーブの普及で水源の郷を守る活動

活動フィールド：滋賀県湖北地域
所在地：滋賀県長浜市
設立：2012年4月
会員：20名
<http://myorinosato.com/>



市民の取り組み参加で、木質ペレットストーブの普及と、間伐材や残材
でのペレット製造工場の建設で新しい産業の創出と水源の郷を守る活動を
しています。

これまでの「菅並妙理の里振興組合」を2012年4月よりNPO法人化、翌
年4月より事業の見直しで“木質ペレットストーブの普及活動”に一本化す
ることとなりました。また、お陰様で夏原グラントの助成で、障がい者就
労支援施設「やまぶき」に木質ペレット袋詰め作業のデジタル秤や袋を閉
じるシーラーを導入でき、翌年には90kgのペレットストーブを持ち上げ
るハンドリフトも購入することができました。高齢のメンバーも多く重量
物の運搬には大変うれしい助成となりました。

- 「地球温暖化は、予想をはるかに超えるスピードで進行しています。
いま、行動すれば、子どもたちと人類の未来を守ることができます。」
 - 「まだ あなたは 化石燃料 ですか？」
- を合言葉に、感謝を忘れず“木質ペレットストーブの普及活動”に頑張りま
す。

白鳥川の景観を良くする会 桜並木の整備による憩いの散策路づくり

活動フィールド：滋賀県近江八幡市 白鳥川
所在地：滋賀県近江八幡市
設立：2006年2月
会員：約30名
<http://sky484.com/>



2006年2月に発足以来、白鳥川流域の活動エリア約5km間において年24
回余の除草やごみ拾い、桜並木の育成管理等の定例活動や、小学5年生の体
験学習、桜ぼんぼり設置等の各事業オプション活動で満9年あまりが過ぎま
した。

その間の事故もなく、地域住民や病院関係の皆さまからも「きれいになっ
たね…」と好評の声をいただき、流域の景観向上や河川敷のごみ回収等
でわ湖水質の環境良化にも寄与できたと確信いたしております。また、各桜樹
木の育成管理で住宅地や田園風景の中、5km桜並木が市民の憩いの散策路
として、散歩者やランニング者、観光客、ウォーク団体等も多くなり、その
実を上げつつあります。

現在、メンバー60名の平均年齢が約70才ですが、この景観や桜並木、憩
いの散策路を後世に残すべく、相互が協力し当活動を通して3づくり（健康
づくり、生きがいづくり、仲間づくり）に向け、今日も元気で頑張っており
ます。

彦根雨壺山・護林会 千鳥ヶ丘公園（雨壺山）の荒廃緑地を「里山」に再生

活動フィールド：滋賀県彦根市 雨壺山
所在地：滋賀県彦根市
設立：2004年6月
会員：約40名



夏原グラントの助成で、前年に続きチップパーシュレッダーをレンタル
し、公園と麓のお寺裏山の荒廃竹林を、一気に間伐清掃しました。チラシ
で市民にも協力を呼びかけ、会員17人と一日ボランティア市民13人の計
30人で汗を流しました。比較的音の小さい小型のチップパー2台を使い、山
腹と山麓に分かれて廃竹処理。この場所の竹林は2年目の作業で、一帯は
数年間手入れは不要、といえるほど美林化しました。

2004年に始めたこのボランティア活動、2013年度で10周年を迎えまし
た。荒廃緑地の改善だけでなく、積極的な公園緑化もと、遊歩道沿いにサ
ツキ40本とイチヨウ3本の記念植樹を計画。これも助成金で苗木や肥料を
購入し、この2月に会員など25人で植栽、季節感や彩り豊かな公園に一歩
前進させました。

初期に手がけた竹林は2度目の手入れ時期。緑地の保全に終わりはありません
。特別な財政基盤のない不安定なボランティア活動。年間通じて竹
や灌木伐採、夏のしばらくは草刈りにも追われます。助成金で草刈り機や
チェーンソーなど機材も補充、燃料などの経費も心配せずに作業が進めら
れ、私たちには記念すべき10周年を無事に乗り切ることができました。

一般社団法人 kikito びわ湖の森の間伐材買取事業

活動フィールド：滋賀県東近江市、多賀町など
所在地：滋賀県東近江市
設立：2012年5月
団体会員：19団体・個人会員：4名
<http://www.kikito.jp/>



私たちは、滋賀県湖東地域を中心に、びわ湖の森に携わる企業や行政など
が集まって、びわ湖の森を元気にする仕組みづくりに取り組んでいます。今
回は、次世代に継承できる森林を増やすため、森林所有者の笑顔の復活を目
指して、間伐材の買い取り事業を行いました。日野町と多賀町での各2回の
買取日にはたくさんの団体や個人が参加してくださり、合計104tの間伐材
が集まりました。買い取った間伐材は、紙製品（コピー用紙、印刷用紙、名
刺台紙等）に活用され、また街に戻ってきます。

「せっかく育てた木が役に立つなら！」と間伐材を運んで来てくださる笑
顔にたくさん出会えました。この笑顔が、次の世代に豊かな森林を引き継ぐ
原動力になり、適正な森林管理への意欲につながります。

これまで、多賀町でのみ実施してきた買取事業が、この助成によって日野
町で開催できました。多くの方に「日野であるのを待ってたんや！」とい
うお声をいただきました。この笑顔の復活により間伐材が促進され、びわ湖の森
が元気になります！

きぬがさ山「里山に親しむ会」

きぬがさ山系の登山道の整備作業と
子供達の里山での自然体験学習

活動フィールド：滋賀県東近江市 きぬがさ山
所在地：滋賀県東近江市
設立：2002年3月
会員：24名
<http://ameblo.jp/satoyama-friends/>



最近「きぬがさ山」に登る人々が多くなったように思われます。山と言ってもなだらかな遊歩道が多く子どもからお年寄りまで無理せず、いろんなコースが楽しめるからです。

私たちの会はこうした山登りをする皆さんが、安全で快適に山を楽しめるようにと毎月第3土曜日を定例作業日と定め、県内の山を愛する人々が会員となり、道しるべ設置、草刈りや台風、雪害で倒れた木や、ナラの枯れ木の伐採、そして山の道案内なども実施しています。

また、子供たちが故郷の山を愛し、山をはぐくむ精神を持つよう、清掃登山や伐採の見学、山の中での遊びを体感するよう活動をしています。会の発足時、遊歩道は草が茂り倒木が道をふさぐ状況でしたが、会員の活動により、快適な登山が楽しめるようになりました。

遊歩道の整備も、看板作製の材料、草刈り機、チェーンソーの購入、修理、燃料と資金が必要となり、会費だけでは苦しい状況でしたが、この助成により安心して活動が出来るようになり、遊歩道の整備と地域の方々、子供たちとのふれあいの場が広がってきたと思われます。

のとがわエコ水車の会

山エコ水車で夜道も明るいまちづくり

活動フィールド：滋賀県東近江市、近江八幡市
所在地：滋賀県東近江市
設立：2009年春



能登川地区は町中を小川や水路が縦横に流れています。一方、放置自転車は増加し続けています。そこで使われなくなった自転車を活用して水車を作り、自転車の発電機を水路で回して夜道を明るくしようと平成21年春に発足しました。

昨年、八幡工業高校3年生の課題研究テーマに採用していただき、協働による「蓄電型エコ水車」の製作に取り組んでいます。5月から12月にかけて月2回程度学校へ出向き、生徒さんたちの製作に参加し、1月の成果発表会も参観させていただきました。また、夏には近江八幡の金剛寺町自治会の方からご依頼を受け、お宮さんの水路に水車を設置することができました。金剛寺町自治会さんでは、手づくりの素敵な看板を立てて下さり、子どもさんたちにも親しまれ喜んでいました。

助成制度をきっかけに、高校生とのコラボレーションに踏み出すことができ、また、助成によって新しい工夫に積極的にチャレンジすることができるようになりました。

特定非営利活動法人 愛のまちエコ倶楽部

里山と里地をつなぐ、
地域内循環農業の再構築事業

活動フィールド：滋賀県東近江市
所在地：滋賀県東近江市
あいうエコプラザ菜の花館
設立：2007年
<http://www.ai-eco.com/>



放荒廃した里山と疲弊した農地を元気にし、地域内で資源が循環することを目標として、里山と農地をつなぐ事業を行いました。

4回の活動の中で、木の伐採・薪割り・下草刈り・腐葉土採取などの里山整備作業、腐葉土や木質チップを使った無農薬の野菜栽培、収穫野菜を使った昼食交流会、持続可能な暮らしについて考える「パーマカルチャー」の学習会などを実施。天候の悪い日もありましたが、それでもさまざまな地域から延べ125名の参加がありました。

助成金をいただいたおかげで、チップ機を借りたり講師を呼んだり、普段できないことが可能になり、充実した活動ができました。

参加者は里山で汗を流し、里山資源で育った野菜の立派さに驚きの声をあげ、昼食を食べながらお互いの交流を深めました。学習会では「持続可能な暮らしってもっとも難しいことかと思っておりましたが、私でも出来ることあるってわかりました。」という嬉しい感想も。

この事業をきっかけに、今後もさらに参加者を増やし、活動の輪を広げていきたいです。

特定非営利活動法人子育て研究会

こんこん山の里山再生と森保全ワークショップ

発活動フィールド：滋賀県栗東市 こんこん山
所在地：滋賀県守山市
設立：2006年7月10日
<http://kosodateken.blogspot.jp/>



「こんこん山」という場所が、子どもたちの中に冒険・遊びの場というイメージで定着しつつあります。そもそも、「子どもたちの隠れ家的遊び場が身近にあればいいなあ」そんな思いから、こんこん山にかかわった私たち。活動を安全に楽しく行うための整備・準備を行っているうちに、今まで起こっているいろいろな問題に気づきました。ナラ枯れの被害・それによって子どもたちが遊べる木がだんだんとなくなっていくこと・子ども達が大好きな昆虫達がだんだんといなくなっていること・ドングリがだんだん少なくなっていること。森が持つよい点もたくさん気づきました。子どもたちがたくさん遊びを自ら見つけられること・道具がじょうずに使えるようになったこと・自分で考えて行動できるようになったこと。このように私たちは、子どもたちとの遊びを通じて里山を見てきました。「これからも山にたくさんのお楽しみをもらうために、今しなくてはいけないことは何だろうか？」子ども達と野山を駆け回ることで、自然とそんなことを考えます。

遊ぶことで山に関心を持ち、未来のために保全する。私たちはそんな活動をずっと続けていきたいと思ひます。

環境レイカーズ

子どもたちによる五十年森再生活動

活動フィールド：滋賀県東近江市 五十年森
所在地：滋賀県近江八幡市
設立：2001年5月
<http://www.kankyolakers.org/>



2012年度、子どもたちと活動を始めた東近江市八日市の五十年森。時期を同じくして、地域のまちづくり協議会さんも「五十年森を何とかせねば！」と立ち上がり、不法投棄のゴミの撤去やササ藪や竹林の刈取りなどを行われました。2013年度は、美しくなった森で、子どもたちがずっと守り続けたい森へ愛着が持てるよう、保全活動と並行して生きもの調査を行いました。夏の生きもの探しでは、カブトムシやバッタなど多くの虫たちが見つかり、冬越しの生きもの探しでは、樹皮に隠れている小さな命を見つけることができました。またキツネと思われる巣穴も多く見つけることができました。

助成をいただいたことで、子どもたちが普段から知っている森の虫たちだけでなく、森の生態系の底辺となる土壌中の生きものや頂点となる哺乳類の生息を見つけることができ、生きものつながりを子どもたちが知ることができました。間伐やゴミの片付けなどの保全活動や生きもの調査活動を通して、森に関わる子どもたちを育成する環境学習活動を行うことができました。これからは五十年森が大好きな子どもたちを育て、子どもたち自ら森に関わることができる環境整備を進めていきたいと思ひます。

子ども活動サポーター会

コバノミツバツツジの郷づくり

活動フィールド：滋賀県湖南市
所在地：滋賀県湖南市
設立：2002年4月
会員：地域団体とのゆるやかな連携組織 役員約10名
<https://www.facebook.com/pages/コバノミツバツツジの郷づくり/409101189176389>



4月にツツジ科の中で最も早く咲くコバノミツバツツジは、湖南市、野洲市、竜王町の一帯の里山に、10万本ほど自生していると思われますが、山が荒れて年々少なくなっています。とりわけ、湖南市サイドタウンには、庭や川沿いに数多く自生しています。原風景を守るために、全国各地の社寺や里山でコバノミツバツツジの保全活動が行われていますが、住宅地・小学校・老人福祉施設を含む地域全体で取り組んでいるのは、私どもの会だけです。それは、コバノミツバツツジが自生する恵まれた里地に、私たちが家、学校、老人福祉施設を建てたからです。

4月には、大人も子どもも、観察会・花見会で盛り上がり、コバノミツバツツジの花で作った、ゼリーを食べて、ロウソクを灯しました。5月に、菩提寺北小学校の1年生が播種したコバノミツバツツジは、とても小さな芽を出しました。秋の4号鉢への植替えのときでも、少ししか大きくなりませんが、2年経つと50cmほどに育ちます。1年生が、3・4年生になったころに学校の法面に植え替えて、6年生になることには赤紫に染めるでしょう。子どもたちとともに、コバノミツバツツジも息長く育成することが大切だと考えています。